

## 分担研究報告書

研究題目 実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（案）の作成

研究分担者 宮崎 美砂子（千葉大学大学院看護学研究科・教授）  
奥田 博子（国立保健医療科学院健康危機管理研究部・上席主任研究官）  
春山 早苗（自治医科大学看護学部・教授）  
石川 麻衣（群馬大学大学院保健学研究科・准教授）  
金 吉晴（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所・所長）  
植村 直子（東京家政大学健康科学部・講師）

### 研究要旨

昨年度、本研究班において、発災後の4つの時期別（超急性期、急性期及び亜急性期、慢性期、静穏期）における、実務保健師の災害時のコンピテンシーとして81項目、それらの基となる知識・技術・態度として100の内容を明らかにした。本研究の目的は、それらの知見を踏まえて、実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（案）を作成することである。作業は、研修ガイドライン（案）の根拠とする知見の整理、研修ガイドライン（案）の目的及び基本とする考え方の明文化の段階を経ながら、研究班メンバー間の討議により、行った。その結果、研修ガイドライン（案）の基本とする考え方として、災害時の実務保健師のコンピテンシーを基盤に、その能力を高めるための研修の企画・実施・評価ができること、各自治体における研修ニーズに基づき企画する人材育成研修とすること、研修時のリフレクションによって受講者が自分に必要な学びを明確にできること、研修後の継続的な能力開発に繋げる方向づけを図ること、を定めた。研修ガイドライン（案）は、研修ガイドラインとは、実務保健師に求められる災害時の役割と実践能力、研修ガイドラインを活用した研修の企画の流れ、研修の企画・実施・評価のためのツールの構成とし、は研修企画シート、コンピテンシー・チェックシート、研修評価の質問紙等を示した。研修ガイドライン（案）の作成過程から、実務保健師の災害時の実践能力及びその育成の在り方として、保健師としての基本的な実践能力の涵養を内包した災害時の役割とその遂行に対する研修企画、OJT・Off-JT・自己研鑽の連鎖による能力育成とそれらの方向づけが重要と考えられ、研修ガイドラインはそれらの具現化に貢献する必要があると考えられた。

### A．研究目的

昨年度、本研究班では、過去の災害対応事例の記録調査、関係者への聴取、既存の知見の検討を踏まえ、災害時に実務保健師が担う役割、必要とされるコンピテンシー（実践能力）、修得すべき知識・技術・態度について整理を行い、その妥当性を確認するために、災害対応経験をもつ自治体の実務保健師及び統括役割を担う保健師（統括保健師）へデルファイ調査を行った。その調査結果を含む、昨

年度の本研究班の9つの分担研究結果の総括から、実務保健師に求められる災害時のコンピテンシーとして81項目、それらの基となる知識・技術・態度として100の内容を発災後の4つの時期別（超急性期、急性期及び亜急性期、慢性期、静穏期）に明らかにした<sup>1)</sup>。

本研究の目的は、上記の81のコンピテンシー、100の知識・技術・態度を基に、実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン（案）を作成する

ことである。これにより、全国の保健師の研修実施機関が参照標準として活用できる研修ガイドラインの作成を目指す。

<用語の定義>

#### ○実務保健師

管理的立場及び統括的立場の保健師を除く保健師を実務保健師とする。すなわち、新任期、中堅期にある保健師で、「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会最終とりまとめ（厚生労働省、平成28年3月）」<sup>2)</sup>において示すキャリアレベルA-1～A-4段階にある保健師とする。

#### ○コンピテンシー

業務遂行にあたり、自分自身がこれまで修得した知識・技術・態度を総体的に動員し、行動の形で具体的に表す実践的能力。行動には判断・意思決定・行為を含み、知識・技術・態度は、状況に対する、理解・考え方、方法・手段、心構えを指す。

#### ○リフレクション

自分自身の行動の振り返りから、次に活かす学びと教訓を得る過程。その時にその状況をどのように理解し、判断・意思決定し、行動に移したのか、の一連の過程を振り返ることを通して、良かったと思える点や、不足あるいは改善を要すると思える点についての気づきを得て、今後、意識して行動すべきことを明確にする。それにより、専門職としての考え方や行動についての信念を深める。

#### B．研究方法

前年度の本研究班の調査から得られた、実務保健師に求められる災害時のコンピテンシー、知識・技術・態度の知見を踏まえ、実務保健師の災害時の役割を研究班メンバーの複数回の討議により検討し、役割遂行に必要な能力を修得するための研修内容を、自己学習と集合型対面研修（演習・討議）の観点から検討し、研修ガイドライン（案）を作成する。

（倫理的配慮）昨年度の本研究班の調査結果及び公表されている関連知見を用いて、研修ガイドライン（案）を作成するた

め、倫理的配慮を要する事項はない。

#### C．研究結果

##### 1．昨年度の本研究班の調査から得られた知見の整理

昨年度、本研究班において明らかにした実務保健師に求められる災害時の役割とコンピテンシー、その遂行に求められる知識・技術・態度の内容を、能力育成の観点から重要と考える点を整理した。

実務保健師として必要とされる能力は、知識（理解）レベルで良いもの、スキルとして確実に行動できるレベルで修得すべきもの、思考や判断・創造力が求められるもの、に大別できる。これら3側面の能力育成を考える必要がある。情報収集、アセスメント、ニーズ把握、支援計画の立案・提案と体制づくり、実行と調整、評価の枠組みであり、それらの力を養う必要がある。

被災者個々への支援と集団・地域への支援を関連づけながら同時に扱う力の育成が必要である。個人の力量、連携や外部支援者との関わりの力量など複数のチャンネルで能力育成を考える必要がある。個人で学習できるもの、対面形式のワークによって学習できるものがある。

集中型で短期に修得可能なもの、経年的な蓄積型で修得するものがある。

平時の活動から修得可能なもの、平時の経験からでは修得困難なものがある。

研修参加者が相互に学び合い、その学び合いが災害時の実践に連動する企画が必要である。

他の研修との関連・位置づけを明確にする必要がある。その上で研修企画の主体となる機関の立場の特性を活かした企画とする。

## 2. 研修ガイドライン(案)の目的と基本とする考え方の

研修ガイドライン(案)の目的、基本とする考え方を以下のように定めた。

### 1) 目的

実務保健師が災害時における役割(任務及び期待される行動)を理解し、役割を効果的に遂行できるよう、コンピテンを養うとともに、それぞれの所属組織の災害時の機能の促進に貢献する力を養うことに役立てる。

### 2) 基本とする考え方

災害時の実務保健師のコンピテンシーを基盤に、その能力を高めるための研修の企画・実施・評価ができること、各自治体における研修ニーズに基づき企画する人材育成研修とすること、研修時のリフレクションによって受講者が自分に必要な学びを明確にできること、研修後の継続的な能力開発に繋げる方向づけを図ること、を基本的な考え方とした。

## 3. 実務保健師に求められる災害時の役割の整理

昨年度の本研究班で示した、災害時の4つの時期における、実務保健師の災害時の81のコンピテンシー、100の知識・技術・態度から、実務保健師に求められる災害時の役割を以下のように整理した。

### 1) 実務保健師に求められる災害時の役割

実務保健師には、組織の方針や体制を踏まえ、地域の最前線において、被災者や避難所等の生活の場に直接かわり、個々のヘルスニーズに対応するとともに、集団や地区に対して必要な対策や手段を提案し具体化していく役割がある。これらの役割を遂行するためには、市町村あるいは保健所等の所属組織の機能の特性および地元保健師としての立場を活

かして現場に介入する力及び多様な人々と協働する力が求められる。

#### (1) 超急性期

被災者への応急対応、救急医療の体制づくり、要配慮者の安否確認と安全確保のための避難への支援、被災地区のヘルスニーズのアセスメント、外部支援者からの受援を有効に活用するために必要な準備の役割がある。

#### (2) 急性期及び亜急性期

被災者に対する持続的な健康支援及び避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり、重点的に対応すべきヘルスニーズの把握、外部支援者との協働による活動の推進、要配慮者への継続的な支援、自宅滞在者等への支援、保健福祉の通常業務の持続や再開及び新規事業の推進、自身・同僚の健康管理の役割がある。

#### (3) 慢性期

活動の進行管理や支援の調整等のマネジメントの役割がある。具体的には、被災者の居住場所の変化に伴うヘルスニーズの把握、被災者の長期的な健康管理の体制づくり、復旧・復興期の地域づくりにおける住民との協働・人材の育成がある。

#### (4) 静穏期

平時の業務を通して行う防災・減災の活動、災害時の健康管理への備えに対する住民及び関係者との協働、地域防災計画・活動マニュアルにおける自身や所属組織の役割の明確化、要配慮者の災害時個別支援計画立案と関係者との連携促進の役割がある。また災害支援活動を通じた保健師の専門性の明確化や自身及び家族の災害への備えの役割がある。

## 4. 研修ガイドラインを活用した研修の企画

上述の研修ガイドライン(案)の基本とする考え方を踏まえ、研修企画においては、以下の4つのステップを踏むこと、とした。

### 【ステップ1】研修のニーズのアセスメント（課題の明確化）

実務保健師の現状や問題を把握する。所属組織の現状や問題から、研修に対するニーズを実務保健師の災害時のコンピテンシーリストをチェックしながら検討する。

### 【ステップ2】研修の目標の設定

実務保健師のコンピテンシーリスト及びその基となる知識・技術・態度の項目の中から焦点をあてる内容を定める（複数可）。

研修により期待するコンピテンシーの到達度を定める。

### 【ステップ3】研修プログラムの構成及び方法の検討

事前学習、集合型対面学習、事後の方向づけ、の3側面から研修の構成及び方法を検討する。

ステップ2で確認した研修ニーズに則り、事前学習では個人学習による知識・態度の準備形成、集合型対面学習では、知識、心構え、責任感の形成、及び思考・判断・行動力の形成を検討する。またリフレクションを通して受講者が自己の学びを評価し課題を明確にして事後の方向づけを図ることができるよう検討する。

### 【ステップ4】研修の評価計画の立案

Kirkpatrickの学びの評価の4視点<sup>3)</sup>に基づき、下記の内容で評価方法を検討する。

反応・満足度

修得した知識・技術・態度

実践に戻り行動化した内容

職場等の環境の変化の内容

### 5. 作成した研修ガイドライン（案）の構成

原案、Ver.1を経て、Ver.2を作成し、これを研修ガイドライン（案）とした。目次は、  
研修ガイドラインとは、  
実務保健師に求められる災害時の役割と実践能力、  
研修ガイドライ

ンを活用した研修の企画の流れ、  
研修の企画・実施・評価のためのツール、  
とし、  
には研修企画シート、コンピテンシー・チェックシート、研修評価の質問紙等を示した（表）。

### D. 考察

保健師の災害時の対応能力の育成を図るためには、保健師としての基本的な実践能力を踏まえた、体系的な能力育成の理解とその理解を踏まえた研修の企画が重要である<sup>4)</sup>。

研修ガイドライン（案）を作成する過程において、実務保健師の災害時の対応能力とその育成について重要と示唆されたことを以下に考察する。

1) 保健師としての基本的な実践能力の涵養を内包した災害時の保健活動に関する役割とその遂行に対する研修企画

実務保健師の災害時の対応能力育成においては、災害対応における実務保健師の役割として、任務と期待される行動の観点から、理解と行動力を図ることが重要と考えられた。任務の理解においては、所属組織の災害時の体制や指示命令に基づき組織の一員として活動を組織的に推進することの理解が必要である。

また役割の具体的な遂行においては、保健師としての基本的な実践能力を踏まえた、災害時に必要な思考、判断、行動の実行が重要と考えられた。保健師の基本的な実践能力は、対人支援能力と地区管理能力を両輪とする地区活動の展開である。実務保健師の災害時の対応能力育成においては、保健師としての基本的な実践能力の涵養を内包させて災害時に特徴的な役割及びその遂行の理解と行動力を図る研修企画が重要である。

研修時のリフレクションによる受講者自身の学びの自己評価や自己の課題の明確化においても、保健師としての専門性の自覚や理解の深化を確認しながら、災害時に必要な知識に基づく思考・判断・行動を図る能力が育成されたかどうかを

確認することが重要と考える。保健師としての専門性の自覚や理解の深化においては、市町村や保健所等といった、所属組織の種別に拠って災害時に特徴的な実務保健師の役割を自覚することも含まれる。たとえば、市町村では、地域診断や住民・地元関係者との信頼関係に基づいた災害時の役割について、また保健所では、市町村との連携・協働、市町村支援における災害時の役割について、発揮すべき専門性についての自覚と理解を深化させていくことが重要である。

2) OJT - Off-JT - 自己研鑽の連鎖による能力育成とそれを方向づける研修企画

研修は Off-JT に相当する。実務保健師が研修での学びを具現化できるようになるには、任務に対する自覚と責任感を高め、さらに知識を行動につなげ、その行動の根拠とした思考や判断の質を高めていくことが重要である。

研修において自覚したこと、得た知識、気づいた自己の課題を、平時の実践活動に繋げ、経験を蓄積していくことのできる連鎖を方向づける研修の企画と評価が重要と考える。

## E . 結論

昨年度、本研究班において、発災後の4つの時期別(超急性期、急性期及び亜急性期、慢性期、静穏期)における、実務保健師の災害時のコンピテンシーとして81項目、それらの基となる知識・技術・態度として100の内容を明らかにした、本研究の目的は、その知見を踏まえて、実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン(案)を作成することである。作業は、研修ガイドライン(案)の根拠とする知見の整理、研修ガイドライン(案)の目的及び基本とする考え方の明文化の段階を経ながら、研究班メンバー間の討議により、行った。その結果、研修ガイドライン(案)の基本とする考え方として、災害時の実務保健師

のコンピテンシーを基盤に、その能力を高めるための研修の企画・実施・評価ができること、各自治体における研修ニーズに基づき企画する人材育成研修とすること、研修時のリフレクションによって受講者が自分に必要な学びを明確にできること、研修後の継続的な能力開発に繋げる方向づけを図ること、を確認した。研修ガイドライン(案)は、.研修ガイドラインとは、.実務保健師に求められる災害時の役割と実践能力、.研修ガイドラインを活用した研修の企画の流れ、.研修の企画・実施・評価のためのツールの構成とし、. は研修企画シート、コンピテンシー・チェックシート、研修評価の質問紙等を示した。研修ガイドライン(案)の作成過程から、実務保健師の災害時の実践能力及びその育成の在り方として、保健師としての基本的な実践能力の涵養を内包した災害時の役割とその遂行に対する研修企画、OJT - Off-JT - 自己研鑽の連鎖による能力育成とそれらの方向づけが重要と考えられ、研修ガイドラインはそれらの具現化に貢献する必要があると考えられた。

## F . 健康危険情報

なし

## G . 研究発表

なし

## H . 知的財産権の出願・登録状況

なし

## < 引用文献 >

- 1) 宮崎美砂子他:平成30年度厚生労働科学研究費補助金「健康安全・健康危機管理対策総合研究事業」災害対策における地域保健活動推進のため実務担当保健師の能力向上にわる研修ガイドラインの作成と検証」総括・分担研究報告書、2019.
- 2) 厚生労働省:地域保健従事者の資質

の向上に関する検討会報告書 . 2003 .  
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2003/07/s0715-2b.html>

- 3 ) James D. Kirkpatrick & Wendy Kayser Kirkpatrick : Kirkpatrick's Four Levels of Training Evaluation. Amer Society for Training ,2016.
- 4 ) 宮崎美砂子他 : 平成 28-29 年度厚生労働科学研究費補助金健康安全・健康危機管理対策総合研究事業「災害対策における地域保健活動推進のための管理体制運用マニュアル実用化研究」別冊 統括保健師のための災害に関する管理実践マニュアル・研修ガイドライン . 2018 .

表 実務保健師の災害時の対応力育成のための研修ガイドライン（案）の構成

はじめに

- ．研修ガイドラインとは
- 1．目的
- 2．基本とする考え方
- 3．利用者および活用方法
- 4．焦点を当てる災害の種類・場面
- 5．期待される効果
- 6．用語の定義
- 7．既存の人材育成研修等との関係
  
- ．実務保健師に求められる災害時の役割と実践能力
- 1．発災後の実務保健師の役割
- 2．実務保健師の災害時のコンピテンシーのリスト
- 3．実務保健師のコンピテンシーの基となる知識・技術・態度の項目
- 4．災害時の実践能力を養うための経験の体系
  
- ．研修ガイドラインを活用した研修の企画の流れ
- 1．ステップ1：研修ニーズのアセスメント
- 2．ステップ2：研修の目標の設定
- 3．ステップ3：研修プログラムの構成及び方法の検討
- 4．ステップ4：研修の評価計画の立案
- 5．研修ガイドラインの活用事例
  
- ．研修の企画・実施・評価のためのツール
- 1．研修の企画シート
- 2．実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート
- 3．研修評価のための質問紙
- 4．リフレクション・シート
- 5．自治体保健師の標準的なキャリアラダー

巻末：コンピテンシーのキーワード索引